

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	耐火造建物3階建での人命検索活動中のフラッシュオーバー
3. 体験した事例の中心的要素	・耐火造建物火災の特性を各個が認識したうえでの活動ができていなかった。 ・現場活動統制不足
4. 体験した事例の原因・理由	耐火造建物火災の発生件数が少なく、活動経験及び対応すべく訓練等が十分実施されていなかった。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。
------------------	------------------------------

.....

1. 発生日時	平成 19 年 2 月 8 日 午前 5 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋内：耐火造建物3階建（1階部分店舗）の3階共同住宅の一室
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：人命検索中フラッシュオーバーが発生
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動初期、 [耐火造建物、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	人命検索、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[47]歳、 勤続年数[27]年、 現場経験年数[27] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [複数隊の隊長]
○当事者 B	年齢[36]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[16]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [数年に 1 度程度]、 任務 []
○当事者 C	年齢[34]歳、 勤続年数[15]年、 現場経験年数[15]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [数年に 1 度程度]、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	当事者 D 年齢：31 歳、勤続・現場経験：12 年、階級：消防副士長、同様の活動： 頻繁 任務：隊員及び機関員

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	火点室の扉を開放・進入	この時点では、ホースに充水されていない状態
経過 2	当事者 B	ホースに充水し、援護注水体制をとるよう他の隊員に指示し、当事者 A（隊長）に続き進入	
経過 3	当事者 C・D	援護注水体制をとり、投火器を持って進入	
経過 4	当事者 A	約 5 m 進入検索したあたりで、熱気の急上昇・煙の流れの異変に気づき緊急脱出を指示	
経過 5		（熱気が急上昇し、煙の中に炎が見え濃炎が天井から急降下。頭上に手をかざしたところ、ケブラ手袋であったが、熱傷しそうになった。）	
経過 6	当事者 A・B・C・D	進入口まで緊急脱出。約 3 秒後に爆発音とともに、室内が炎に包まれた。当事者に怪我等が無い旨を確認し、その後即座に放水し火勢を鎮圧。	
経過 7	当事者 A・B・C・D	検索体制を整え、再度人命検索を実施	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・ 活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

・発生日時：平成19年2月8日 午前5時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	隊員D	備考
		複数隊の隊長／消防司令補 ・年齢 47 歳 ・勤続 27 年 ・現場 27 年 ・同様の活動：頻繁	隊員／消防士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 16 年 ・現場 16 年 ・同様の活動：数年に1度程度	隊員／消防士長 ・年齢 34 歳 ・勤続 15 年 ・現場 15 年 ・同様の活動：数年に1度程度	隊員及び機関員／消防副士長 ・年齢 34 歳 ・勤続 15 年 ・現場 15 年 ・同様の活動：頻繁	
	耐火造建物3階建の火災。 この時点では、ホースに充水されていない状態。 火点室の扉を開放・進入。 ホースに充水し、援護注水体制をとるよう他の隊員に指示し、当事者A(隊長)に続き進入。 援護注水体制を取り、投火器を持って進入。 約5m進入検索したあたりで、熱気の急上昇・煙の流れの異変に気づき緊急脱出を指示。 熱気が急上昇し、煙の中に炎が見え濃炎が天井から急降下。 頭上に手をかざしたところ、ケブラ手袋であったが、熱傷しそうになった。 進入口まで緊急脱出。約3秒後に爆発音とともに、室内が炎に包まれた。当事者に怪我等が無い旨を確認し、その後即座に放水し火勢を鎮圧。 検索体制を整え、再度人命検索を実施。 耐火造建物火災の発生件数が少なく、活動経験及び対応すべく訓練等が十分実施されていなかった。 耐火造建物火災の特性を各々が認識したうえでの活動ができていなかった。 現場活動統制が不足していた。					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因：行動の意志決定に問題があった。行動の実行に問題があった。 ・危険情報を把握、予見できた。 ・集中力、注意力があった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・活動に対する経験が不足していた。 (活動環境について) ・狭隘な場所であった。 (指揮・管理について) ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。) ・隊員の連携が不十分だった。